

第1学年 音楽科学習指導案

指導者 三瓶 尚子

- 1 題材名 箏に親しみ、和歌の世界を音楽で表現しよう
教材 表現 「さくらさくら」
創作 「和歌の世界を音楽で表現しよう ～箏曲づくり～」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A 表現

- (2) 器楽 イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。
- (3) 創作 ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。
イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。
- [共通事項] ア 旋律 音色 構成 リズム 速度 強弱

(1) 題材観

本題材は、器楽（箏の演奏）と創作の学習を通して我が国の伝統音楽に触れ、親しみ、そのよさを味わうことをねらいとして設定したものである。

生徒が「我が国の伝統音楽」に関する学習に取り組むのは、中学校に入学してから今回が初めになる。事前に、「我が国の伝統音楽」に関する調査を行ったところ、「日本の音楽」について漠然としたイメージしかもっておらず、生徒自身の生活との結びつきが少ないことがわかった。また、小学校時の学習の記憶も薄く、古謡などの歌唱曲についての記憶はあるものの、器楽曲についての記憶は浅く、学習内容が定着していないことがわかった。一方、箏に対しては「興味がある。演奏してみたい」と回答した生徒が比較的多くいた。そこで、本題材では、小学校4年生で学習した「さくらさくら」（歌唱共通教材）を教材とし、初めて楽器に触れる生徒でも比較的取り組みやすい箏を用いた演奏および創作に取り組むこととした。

学習を進めるにあたっては、まず箏で簡単な曲を演奏する場を設定した。演奏を聴いたり、自分で奏法を試したりしながら箏の特徴を捉え、基礎的な奏法を身に付けて、平調子の旋律の特徴を感じ取りながら「さくらさくら」を演奏する。次に、和歌の世界をイメージした簡単な旋律をつくる。箏の

音色を生かして音楽づくりを進められるように、素材として「百人一首」から四季の情景を詠んだものを四首選び、歌からイメージされる様子を、構成を工夫しながら音楽をつくっていくようにする。「さくらははらはらと散る感じがするから、流し爪で演奏してみよう。」「絶え間なく花の散る様子を、高い音から低い音へと動く旋律をつくり、繰り返すことで表現しよう。」など、イメージから旋律を思い浮かべ、奏法や構成に結び付けて創作できるように助言したい。

音楽をつくるという体験をすることで、より一層、箏に慣れ親しみ、これからの興味にもつなげることができると思う。生徒が、我が国の伝統音楽を身近に感じとれることを願い、本題材に取り組んでいく。

(2) 生徒の実態 (男子15名 女子19名 計34名)

本学級の生徒に、入学当初「音楽の学習についてのアンケート」を実施した。「リコーダーが苦手」「歌唱が不得意」「鍵盤楽器のドレミの位置が分からない」と回答した生徒がクラスの約半分近くを占め、音楽に対して苦手意識をもっている生徒が多くいることが分かった。現在は、音楽の学習に意欲的に取り組む生徒が増え、常に学習課題を意識して授業に臨む姿がみられるようになったと感じている。特に、合唱コンクールの練習では、歌うことに抵抗感を示すことがなくなり、口をしっかりと開け、表情豊かに歌えるようになってきた。

本題材に取り組むにあたり、①②の調査を行った。

①「音楽日本の伝統的な音楽」に関する調査

ア. 「日本の伝統的な音楽」というと、どんな音楽を思い浮かべますか？

- お祭りの音楽 28人
- 神社の音楽 5人
- 民謡 20人
- わらべ歌 18人
- その他 0人

イ. あなたは自分の生活の中で「日本の伝統的な音楽」を聴く（接する）ことがありますか？

「ある」と答えた人は、どんな時ですか？

- ある 2人 和太鼓のサークルで活動している
- ない 32人

ウ. あなたは、次の和楽器を知っていますか？また、音を出したことがありますか？

- 箏 知っている 18人 知らない 16人
- 三味線 知っている 4人 知らない 30人
- 尺八 知っている 3人 知らない 31人
- 篠笛 知っている 2人 知らない 32人

○太鼓 知っている 33人 知らない 1人

○琵琶 知っている 6人 知らない 28人

エ. ウの楽器の中で、あなたが「興味を持っている」「演奏してみたい」と思う楽器はありますか？
ある人は楽器名に○をつけてください。

○箏 14人

○三味線 6人

○尺八 1人

○篠笛 2人

○太鼓 27人

○琵琶 2人

オ. 小学校で勉強した「日本の音楽」にはどのようなものがありましたか？今から、取り組んだと思われる教材名を言うので、記憶のあるものについて書いてください。

「ひらいたひらいた」「夕やけ小やけ」「うさぎ」「さくらさくら」「子守り歌」「民謡（ソーラン節 南部牛追い歌）」「春の海（箏と尺八）」について学習したことがわかった。

②音楽づくり（小学校時）に関する調査と中学校での取組

ア. 小学校では、どのような音楽づくりに取り組んだことがありますか？

「リズムアンサンブル」「旋律づくり（和音から音を選択してつくる）」について学習したことが分かった。

イ. 中学校での取組

○自分の名前をもとにした旋律づくり

自分の名前のイントネーションを音階にあてはめ旋律をつくった。リズムは自由にした。全員がソプラノリコーダーで発表することができたが、正しく記譜ができた生徒は3人であった。

○鑑賞曲「春」から学んだリトルネロ形式を使っでの創作

名前をもとにした旋律を4～5名で持ち寄り、それをリトルネロ形式でつなげ曲をつくった。持ち寄った旋律の中で一番演奏しやすいものをAとし、全員で演奏（tutti）し、B～Eの生徒は一人か二人（solo または soli）で演奏し、「春」の楽曲構成を理解しながら創作を楽しんだ。

③音楽の構成に関する学習についての取組

音楽の構成に関しては、これまで取り組んだどの楽曲においても意識するように働きかけてきた。「主人は冷たい土の中に」、「エーデルワイス」、「浜辺の歌」、「朝の風に」を歌ったり、ソプラノリコーダーで演奏した際にも、Bの部分は音楽的に盛り上がりがあることやAやA'部分とは違った旋律になっていることを確認し、それを意識して演奏するようにした。

合唱コンクールの課題曲、自由曲についての学習の中でも常に構成を意識し、聴き手に歌のメッセージが伝わるような効果的な音楽表現の方法を考えていくようにした。

〈考察〉

生徒にとって「日本の伝統的な音楽」は、生活の中でも、音楽の授業の中でも経験が少なく、身近なものになっていないことがわかった。しかし、和楽器については知っているものがあり、中でも箏については「興味がある」「演奏してみたい」と回答した生徒が約半数いた。小学校で学習した「さくらさくら」を教材として取り上げれば、知っている旋律を演奏するというだけで譜読みに時間を取られずに練習を進められると考える。

「音楽づくり」については経験が少ないようである。本題材では和歌（百人一首）の中から情景をイメージしやすい歌を四首選び音楽づくりの素材として、イメージしたものを箏の音楽で表現することに取り組む。音楽の構成については、これまでの学習を振り返ることができるように、掲示資料の工夫をしていく必要がある。

(3) 指導観

第一次では、箏曲「さくらさくら」の演奏に取り組む。この曲は、箏の手ほどき曲として作られ、優美なメロディーが世界的にも有名である。この曲を教材として取り上げるのは、生徒が小学校4年生で「日本語の美しさや日本の旋律の感じを生かして歌う」歌としてこの曲を学習済みであり、すでに曲を知っているということと、曲が短く単純なリズムで旋律の多くは隣り合った音の流れでできているため、数字楽譜を見ながら比較的容易に演奏できるからである。「弾けた」という達成感をもたせれば、創作への原動力になるはずである。

基本的な奏法として「さくらさくら」にでてくる「親指の基本」「中指の基本」「押し手」の他にも、次の創作の学習を見据え「合わせ爪」「かき爪」「引き色」「輪連」「裏連」等についても、映像資料を活用して学習を進める。

また、学習の中で、箏の歴史や楽器の扱い方、平調子の音階や旋律の特徴についても触れていく。限られた時間の中で効率よく学べるように、ワークシートを工夫する。

第二次では、和歌（百人一首）を素材として創作に取り組む。1年生は国語の時間に百人一首を学習しており、一連の流れとして扱うことができる。和歌については、生徒がイメージしやすい四季の情景を詠ったものとして以下の四首を選択した。

(春) ひさかたの 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ	紀 友則
(夏) わたの原 漕ぎ出でてみれば 久方の 雲居にまがふ 沖つ白波	法性寺入道前関白太政大臣
(秋) 嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 竜田の川の 錦なりけり	能因法師
(冬) 山里は 冬ぞさびしさ まさりける 人目も草も かれぬと思へば	源 宗干朝臣

イメージをもとにした創作は、生徒にとって初めての学習になるため、抵抗感をもたせないように学習の導入時に「エクササイズ」の時間を設けることにする。「さくらが散る様子を表現してみよう」などの課題を提示し、グループごとに自由な発想で表現を考え発表する。自分とは異なる友達の表現を耳にし、「こんな表現方法もあるのか。」と気づき、創作へのヒントとしたい。

「エクササイズ」により、イメージを表現することに抵抗感が少なくなったら、いよいよ一首を選択し、2人組で創作を始める。イメージに合わせ、反復、対象、変化など構成を工夫することを

条件に自由な発想で音楽をつくる。第一次で身に付けた奏法や「エクササイズ」で聞いた表現を生かしながら生徒は楽しんで創作に取り組むであろう。その楽しさから、箏に対する興味・関心、ひいては「我が国の伝統音楽」への興味・関心につなげていけたらと考えている。

今回、記譜は行わず、創作の記録として演奏を録画しておくようにする。

3 題材の目標

- (1) 箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心をもち、箏の基礎的な奏法を身に付けて演奏する。
- (2) 和歌の表現する情景をイメージし、箏の奏法を生かした簡単な旋律をつくる。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 箏の音色や奏法に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 即興的に音を出しながら、イメージを旋律で表す学習に主体的に取り組もうとしている。	① イメージを表現するために、箏の音色や奏法、平調子の旋律の特徴、構成などの音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	① 箏の基礎的な奏法や読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。 ② 箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かして、簡単な旋律をつくっている。

5 研究の視点について

《視点1》 小中連携を関連させた題材構成（指導計画）

本題材は、第一次で箏の演奏に取り組み、第二次で創作に取り組むという構成で指導計画を立てた。

○教材の再活用

第一次では、小学校で歌った「さくらさくら」を再度、教材として取り上げ、箏で演奏できるようにする。前述した通り、同じ曲を繰り返し取り上げることで、スムーズに学習が進むという利点と日本の音楽を代表する旋律が生徒の中にしっかりと刻み込まれるという効用があると考えた。

○我が国の伝統音楽を身近なものにするための題材構成

近年、音楽科の授業の中で「学校や学年に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して

行われるようにする。」ことが強く求められている。これを受け、小・中ともに授業の改善がなされてきているが、児童・生徒にとって我が国の音楽は、まだまだ遠い存在の音楽であることは否めない。

本校の指導計画では、これまで箏の演奏ができるようになったところで学習を終わらせていたが、本題材では第二次で発展として箏曲の創作に取り組む。自分のイメージと音色や奏法を結び付け、自由に箏に触れ、音楽をつくることで、創作の力が身に付くとともに、箏への興味・関心が高まるのではないかと考えた。「我が国の伝統的な音楽」が、この学習によって少しでも身近になることを願い題材を構成した。

○小学校の「音楽づくり」を補い、創作力を高めるための「エクササイズ」

イメージをもとに音楽をつくるという活動は今回が初めてである。本来、小学校の音楽づくりでは、その前段階である「いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。(5・6年 音楽づくり ア)」に取り組んできているはずであるが、事態調査の結果、その学習での力の定着が十分でないことがわかった。そこで、本題材では、小学校時の学習を補うべく、創作の導入でイメージを音で表す「エクササイズ」の時間を設定し、創作へのスムーズな橋渡しができるようにする。ここで身に付けた力が、次時からの創作活動を支えるものとなる。

6 題材の指導計画（5時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な活動	評価規準
第一 次		〈ねらい〉 箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心をもち、箏の基礎的な奏法を身に付けて「さくらさくら」を演奏する。	
	1 時	○箏の基本的な知識を身に付ける。 (歴史・各部の名称・柱の立て方、弦の名前と位置、爪、姿勢とかまえ方) ・ビデオや資料を見て、わかったことをワークシートに記入する。 ○基本的な奏法を覚える。 ・ビデオで色々な奏法を見て、一つずつまねをして音を出す。	◆箏の音色や奏法に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度①)
	2 時	○教材曲と出会う。 ・「さくらさくら」を歌い、曲を思い出す。 ・ビデオを視聴し、箏のよい音色や奏法を理解する。 ○平調子を知る。 ・五線譜で構成音を確認し、箏を鳴らしてみる。 ○「さくらさくら」の練習をする。 ・旋律を弦名で口ずさみながら、弦を弾く。 ・2人組みで教え合いながら、交互に練習する。 ・全員で「さくらさくら」を演奏する。	◆箏の基礎的な奏法や読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。 (技能①)

第二次	<p>〈ねらい〉和歌の表現する情景をイメージし、箏の奏法を生かした簡単な旋律をつくる。</p>	
	<p>3時 (本時)</p> <p>○和歌を音楽で表現することを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つの和歌に出会い、歌の意味を知り、歌の表す情景をイメージする。 <p>○イメージを音楽で表すことに慣れる。</p> <p>「エクササイズ1」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「桜が散る様子」「波が寄せて返す様子」「紅葉が川一面に浮かぶ様子」「冬のさびしい野原の様子」をイメージし、箏で即興的に表現し、発表する。 <p>「エクササイズ2」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達がつくった即興的な表現を聴き、何をイメージして表現したかを考え、発表する。 <p>○表現する素材となる和歌を一首選択する。</p> <p>○ワークシートにイメージと奏法・音楽の構成を書き、実際に箏で音を出して、試行錯誤する。</p>	<p>◆即興的に音を出しながら、イメージを旋律で表す学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(関心・意欲・態度②)</p>
	<p>4</p> <p>○和歌のイメージにふさわしい、箏のための旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な奏法を試し、イメージにふさわしい旋律をつくる。 ・構成を工夫する。(反復・対照・変化) <p>○曲を完成させ、全体を通して演奏する。</p>	<p>◆イメージを表現するために、箏の音色や奏法、平調子の旋律の特徴、構成などの音楽表現を工夫し、どのように旋律を作るかについて思いや意図をもっている。</p> <p>(創意工夫①)</p>
<p>5</p> <p>○創作した音楽を発表し、互いの作品のよさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループはタイトル(どの和歌を選んだか)と工夫した点を述べてから、作品を演奏する。(録画を行う) ・他グループの演奏を聴き、作品についての感想を書いたり、発表したりする。 	<p>◆箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かして、簡単な旋律をつくっている。</p> <p>(技能②)</p>	

7 本時の学習 (3 / 5)

(1) 目標 即興的に音を出しながら、イメージした情景を旋律で表す。

(2) 展開

時配	○学習内容・学習活動	○教師のかかわり◆評価規準〈評価方法〉
10分	○全員で前時に学習した「さくらさくら」を演奏する。 ・平調子や奏法を確認する。	○弦名を唱えながら演奏するよう助言する。
5分	○和歌をイメージした音楽を作ることを知り、学習の見通しをもつ。 ・四つの和歌に出会い、歌の意味を知り、歌の表す情景をイメージする。	○平調子の音階表を提示し、ドミファラシで音階が構成されていることを確認する。 ○4つの和歌を掲示し、紹介する。 ○各歌の意味を解説する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> イメージにふさわしい表現を考えて、演奏してみよう。 </div>		
25分	○「エクササイズ1」に取り組む。 2人グループになり（箏一面を使用） 落ちる・急落する・ゆっくり落ちる・流れる・行ったり来たりする・風が吹く・そよ風・突風・何もない・寒い・暖かい をイメージし、箏で即興的に表現発表する。 ○「エクササイズ2」に取り組む。 ・桜が散る様子 ・波が寄せて返す様子 ・紅葉が川一面に浮かぶ様子 ・冬のさびしい野原の様子 をイメージし、2人グループで相談しながら箏で表現し、発表する。 ・表現を聴き、何をイメージしてつくられた旋律なのかを当てる。	○覚えた奏法を生かすことを助言する。 ○どのような表現がイメージを伝えられるかを考えさせる。 ○演奏者に、表現した音について理由を発表させる。
10分	○二人組で相談し、4つの四季の風景を表す和歌から、創作する歌を一つ選び、どのような音楽をつくるか構想を練る。 ・ワークシートに、和歌からイメージした情景を言葉で書く。 ・イメージに合う奏法を考え、ワークシートに書く。	○各グループの活動を見て回り、適宜アドバイスしたり、これからの活動の参考になる表現を見つけておくようにしたりする。 ○イメージに合う表現を考えたグループを意図的に指名し、発表させる。 ◆即興的に音を出しながら、イメージを旋律で表す学習に主体的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度②)
		○4つの和歌の中から、イメージしやすい言葉や情景を切り取って、その部分について表現を考えることを指示する。 ○箏で音を確認しながら活動してよいことを伝える。 ○生徒の活動を見て回り、適宜アドバイスをしたり進み具合を確認したりする。 ○次時の予告をする。

箏に親しみ、和歌の世界を音楽で表現しよう 第1部

目標 箏について理解を深め、実際に様々な奏法を試してみよう

《 箏について 》

(1)は(2)時代に 現在の中国である唐から伝来した。

その後、日本独自に発展して(3)と呼ばれるようになった。

箏の材料は(4)という木で、

中は空洞となっていて(5)の役割を果たす。

楽器は空想の生き物(6)の体の形で、各部の名称に使われている。

1 1 弦目 1 2 弦目 1 3 弦目

弦は(7)本、一、二・・・十、(8)、()という。

弦を張って音程を調整するのは(9)という部品を使う。

箏の爪は自分の爪の(10)になるようにつける。

《 様々な奏法 》

- 1 親指の基本・・・親指で次の奥の弦で止まるように弾く
- 2 中指の基本・・・中指を振り上げてから手前の弦で止まるように弾く
- 3 合わせ爪・・・親指と中指で同時に二つの弦を弾いて和音にする
- 4 かき爪・・・中指で隣りあった弦を同時に弾く 二つの音が同時に鳴る
- 5 押し手・・・左手で柱を間にして 強押し(1音上げる) オと表示
弱押し(半音上げる) ヲと表示
- 6 後押し・・・弾いた後に押して音程を上上げる
- 7 引き色・・・弾いた後左手で弦を持ち、柱に向かい引くと音が下がる
- 8 輪連・・・中指で1, 2弦を振り下ろして鳴らす
- 9 裏連・・・巾を細かく弾いてから流し、最後の一弦はしっかり弾く

《 奏法を試してみての感想 》

箏に親しみ、和歌の世界を音楽で表現しよう 第2部

目標 箏の奏法を意識して「さくらさくら」を弾こう

《 さくらさくら 》

さ くら ー | さ くら ー
七 七 八 ー | 七 七 八 ー

の や ま も | さ と・も ー | み わ た す | か ぎ・り ー
七 八 九 八 | 七 八七六 ー | 五 四 五 六 | 五 五四三 ー

か す み か | く も・か ー | あ さ ひ に | に お・う ー
七 八 九 八 | 七 八七六 ー | 五 四 五 六 | 五 五四三 ー

さ くら ー | さ くら ー | は な ぎ・か | り ー ー ー
七 七 八 ー | 七 七 八 ー | 五 六 八七六 | 五 ー ー ー

- ・二人一組なので、番号で歌って理解を早くしよう。
- ・7番弦には印がついているので、目安にしよう。
- ・できるようになってきたら、歌詞を歌いながら演奏しよう。

《 奏法の注意点 》

- 1 箏に向かって左斜め45°を目安に座る（生田流）
- 2 角爪（生田流）は自分の爪の反対側、指の腹側につける
- 3 親指の爪で、斜め下方向へ押すように弦を弾き、次の弦で止まるようにする
×禁止× 指を上に向けてぷんぷんと弾かないようにする
- 4 人差し指から小指までそろえて使わない弦に置き、手の甲を上げ、手全体を山型にする

《 箏で「さくらさくら」を弾いた感想 》

箏に親しみ、和歌の世界を音楽で表現しよう 第3部

目標 「イメージにふさわしい表現を考えて、演奏してみよう」

1, 「さくらさくら」を演奏して平調子の音階やその雰囲気を感じ取ろう。

平調子とは・・・(、 、 、 、 、) の**5音音階**

2, エクササイズ① 次のお題についてすぐ箏を弾いて表現しよう。

急落する ・ ゆっくり落ちる ・ 流れる ・ 行ったり来たりする

そよ風 ・ 突風 ・ 何もない

※どんな音の流れを選んだか、どんな奏法を選んで使ったかが大切。

3, エクササイズ② 次のお題から一つ選び、二人組で工夫して表現しよう。演奏するときにはどのお題について表現しているか言わないようにして、みんなに当ててもらおう。

春・桜が散っていく様子

夏・海で波が大きくうねっている様子

秋・川に紅葉が落ちて浮いて流れていく様子

冬・草がみんな枯れてしまった野原

※イメージを音にするには旋律（音の流れ）・リズム・速さ・強弱を工夫しよう。

創作メモ・いつでもこのメモを見れば演奏できるように書く。工夫したことは何か書く。

どんな様子

→ どんな音や奏法

4, 本題 どの和歌を選んだか、○をつけてから創作を始めよう。

春・ひさかたの 光のどけき 春の日に 静心なく 花の散るらむ

陽の光がのどかな春の日に、なぜ慌ただしく桜の花は散ってしまうのか、残念だなあ

夏・わたの原 漕ぎ出でて見れば ひさかたの 雲居にまがふ 沖つ白波

広々とした海上に船を漕ぎ出し遠くを見ると、空の雲と見間違える位に白波が立っている！

秋・嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 竜田の川の 錦なりけり

三室山頂で嵐が吹き荒れ、紅葉の葉を落とし流れる竜田川一面紅葉が埋め尽くしている

冬・山里は 冬ぞさびしさ まさりける 人目も草も 枯れぬと思えば

山里は冬になるといっそう寂しさが増す。人も訪ねてこないし辺りの草も枯れてしまう。

創作メモ・いつでもこのメモを見れば演奏できるように弾く音番号を書いておこう

また、下の 13 弦図も活用しよう。

どんな様子

→ どんな音や奏法

年

組

番・氏名

二人組の名前

さん